

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

二宮町教育委員会

1 はじめに

令和3年5月に実施された「令和3年度全国学力・学習状況調査」の二宮町立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。二宮町教育委員会では、調査結果及び課題等を公表することにより、町民の皆様をはじめ児童生徒に関わる様々な立場の方に関心をもっていただき、二宮町の学校における教育指導の充実や児童生徒の学習意欲の向上につなげていきたいと考えております。

本調査の結果は町全体のものであり、各学校や児童生徒個人の学力や学習状況を表すものではありません。また、本調査は児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面の結果です。

町民の皆様におかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨をご理解いただくとともに、数値結果だけを重視するのではなく教育の過程も考慮いただき、本町の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効にご活用くださいますようお願いいたします。

2 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の内容

- ・教科に関する調査（国語、算数/数学）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

(3) 実施期日

令和3年5月27日（木）

(4) 調査を実施した児童生徒数

小学校 6年生 198人（3校合計）

中学校 3年生 191人（2校合計）

3 調査の結果について

(1) 教科に関する調査の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差

※ 平均正答数：児童生徒の正答数の平均。(正答数の平均/総問題数)

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。ただし、小数点以下第1位の数値を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられることから、文部科学省は都道府県別の平均正答率を整数値で公表。都道府県に対しても同様の配慮を求めていることから、二宮町の平均正答率も小数点以下第1位を切り捨てて表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べたときに真ん中に位置する値。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合を表す数値。

[小学校]

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	8.5 問/14 問	60%	9.0	3.3
算数	11.0 問/16 問	69%	12.0	3.6

[中学校]

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	9.2 問/14 問	66%	9.0	2.7
数学	9.7 問/16 問	61%	10.0	3.7

(2) 各教科の概要について

[小学校：国語]

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える ・ 目的や意図に応じて、資料を使って話す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う ・ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える ・ 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

[小学校：算数]

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件に合う時刻を求めることができる ・ 棒グラフから、数量を読み取ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる ・ データを二次元の表に分類整理することができる ・ 三角形の面積の求め方について理解している

〔中学校：国語〕

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える ・事象や行為などを表す多様な語句について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く

〔中学校：数学〕

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の加法と減法の計算ができる

全教科とも全国の公立学校や神奈川県公立学校の平均正答数・平均正答率と比較して著しい差異は見られません。また全教科で正答数の中央値、標準偏差は小中学校ともほぼ同じ値で差異は見られませんでした。

小学校国語において、全国平均正答率と比べると知識・技能の問題で言葉の特徴や使い方に関する事項に課題が見られました。また、問題形式で短答式の問題に課題が見られました。算数においては全国平均正答率と比べると著しい差異は見られませんでした。

中学校数学において、全国平均正答率と比べると図形領域の問題と数学的な見方・考え方の問題で成果が見られました。また、問題形式では記述式の問題で成果が見られました。国語においては全国平均正答率と比べると著しい差異は見られませんでした。

また、学校に対しては全国学力・学習状況調査の調査結果等の活用として、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げたり、具体的な教育指導の改善や指導計画等に反映させたりすることを求めています。

(3) 児童生徒質問紙調査の概況について

<生活習慣や学習環境等に関する調査結果> (抜粋)

太字：全国比±5%以上

質問 番号	質問内容	小学校 (%)			中学校 (%)		
		二宮町	神奈川県	全国	二宮町	神奈川県	全国
1	朝食を毎日食べている	96.5	94.8	94.9	91.6	91.3	92.8
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	83.4	80	81.2	72.8	76.3	79.8
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている	89.4	89.6	90.4	84.8	90.6	92.7
6	自分には、よいところがある	80.3	76.7	76.9	80.6	75.8	76.2
7	将来の夢や目標を持っている	81.3	77.9	80.3	63.9	65.5	68.6
9	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している	75.3	69.2	70.9	62.3	63.1	65.9
10	人が困っているときは、進んで助けている	90.4	88.2	88.7	88.0	87.2	88.5
11	いじめは、どんな理由があってもいけない	98.0	96.4	96.8	91.6	94.2	95.9
12	人の役に立つ人間になりたい	94.0	95.2	95.5	91.6	93.8	95.0
13	学校に行くのは楽しい	83.3	83.2	83.4	76.4	80.6	81.1
15	自分と違う意見について考えるのは楽しい	71.2	70.8	70.1	67.0	74.0	74.7
16	友達と協力するのは楽しい	94.9	93.8	93.9	83.8	92.7	93.3
17	家で自分で計画を立てて勉強をしている	71.7	72.6	74.0	70.2	64.1	63.5
24	今住んでいる地域の行事に参加してる	62.7	53.2	58.1	31.4	37.1	43.7
25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある	62.6	54.7	52.4	42.4	40.8	43.8
32	これまでの授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	73.7	65.6	63.5	75.4	67.0	62.0
33	これまでの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	79.8	78.3	78.2	75.4	81.1	81.0
36	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	97.5	95.3	95.5	95.9	96	96.5
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、発表するなどの学習活動に取り組んだ	78.8	72.5	73.0	87.5	71.1	70.2
42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んだ	88.4	79.1	81.1	91.1	82.9	86.2

※数値には、「どちらかといえばしている、どちらかといえばそう思う」の回答を含む

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」など規則正しい生活習慣が身についている小学生はほぼ県・全国平均と変わらず良好といえます。しかし、中学生は県・全国平均と比べると大きく下回っており中学生の生活が忙しいことが想像されます。学校と家庭が連携・協力して子どもたちの生活を見守っていて健全な成長につなげていくことが必要となります。

「将来の夢や目標を持っている」と回答している中学生の割合は児童のそれと比較すると少なくなっています。このことは県・全国でも同じ傾向にあります。子どもたちが希望をもって自分の未来を切り開いていけるように、小中が連携し系統的なキャリア教育の推進をしていきます。

「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答している小学生は全国平均を上回っています。しかし、中学生では全国平均を下回っており、前回調査(令和元年度)の時も中学生の回答は小学生の回答を下回る傾向がみられました。依然としてこのような傾向がみられるので要因の究明に取り組めます。

「学校に行くのは楽しい」と回答した小学生は県・全国平均と変わりませんが、中学生の回答は小学生のそれと比較すると県・全国でも下回っています。それぞれの子ども達が自分の持ち味が十二分に発揮でき、毎日の学校生活が充実したものとなるように教育活動を進めていくことが望まれます。

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した小学生は県・全国平均と変わりませんが、中学生の回答は小学生のそれと比較すると県・全国でも下回っています。他者の意見を聞き、自分のものと比較して、自分の考えを問い直したり、自分の考えを深めたり、新たな考えを生み出すことは必要なことです。これからの時代を生きるための資質・能力として、教科横断的にすべての教育活動において「自分の意見と対比する活動」が望まれます。

「友達と協力するのは楽しい」と回答した小学生は県・全国平均と変わりませんが、中学生の回答は小学生のそれと比較すると県・全国でも下回っています。学校行事等で協力して達成感や成就感を味わうこと以外にも、友達と協力する場として学校生活の大半を占める教科の学習において、「学び合い」を通して取り組むことを小中が共通性と一貫性をもって取り組んでいきます。

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した小学生は県・全国平均より若干下回りますが、中学生の回答は小学生のそれと比較すると県・全国でも大幅に上回っています。上の表には掲載していませんが、中学生においては平日学校の授業以外に 2 時間以上勉強していると回答した生徒は 50%を超え全国平均を大きく上回っていました。また、休日(土曜日、日曜日)についても 3 時間以上勉強していると回答した生徒は 30%を超え全国平均を大きく上回っていました。今後も学習内容を定着させ、学習習慣を確立する取組みを行うよう、学校に家庭との連携を今後も求めていきます。

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小学生は県・全国平均より大きく上回っており地域コミュニティと密接な関係があることがうかがえます。しかし、中学生の回答は小学生のそれと比較すると全国平均を大きく下回っています。特に中学生の地域行事への参加は小学生のそれと比べて半減しています。中学生は部活動等で地域の行事に参加したくても参加できないことも考えられますが、発達段階も考慮しながら地域行事への参加などを通じて、地域の一員としての自覚を育むことが望まれます。

「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した小学生、中学生はともに県・全国平均より大きく上回っています。「総合的な学習の時間」など多くの授業で発表する機会が与えられていることがわかります。これから求められる汎用的な資質・能力の一つであり、今後も発表する機会を多く設定していくことが望まれます。

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した小学生、中学生ともに県・全国平均より上回っています。特に中学生は大きく上回っています。総合的な学習の時間の本来の姿である「探究的な活動」がなされています。

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した小学生、中学生はともに県・全国平均より上回っています。今回の質問紙は道徳の授業に限定していますが、このように話し合いの授業が行われることで、「主体的・対話的で深い学び」により思考力、判断力、表現力の汎用的な資質・能力が育まれることから、小中学校のすべての教科領域で共通性と一貫性をもって積極的に取り組むこととしています。

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した小学生は県・全国平均と同程度ですが、中学生は県・全国平均より下回っています。受け身的で積極的に取り組もうとする姿勢が乏しい傾向が見られます。前回の調査結果の報告によると、「課題解決に向けて主体的に考え取組んでいた」と回答した児童・生徒ほど各教科の正答率は高くなっています。課題設定や課題の提示のしかたなど授業改善に取り組むこととしています。

二宮町内のすべての小中学校がコミュニティ・スクールとなりました。家庭や地域ときの協働による取組の場面が今まで以上に期待されます。コミュニティ・スクールの仕組みを生かして学校、家庭、地域との協働による取組みで教育水準の向上を目指します。

4 今後に向けて

二宮町教育員会では、本調査の結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に示しました。各学校では、それぞれの分析を加えて課題を検討し授業改善や学校経営に反映させています。

今後とも、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とともに、これらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりに努め、より効果的なカリキュラムマネジメントが行われるよう教育委員会は各学校を支援していきます。

本調査を通じて、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、地域社会との関わりは学力向上及び児童生徒の健全育成に大切であることが改めてわかりました。二宮町教育委員会では、児童生徒の生きる力を育成するために、小中学校が 9 年間を見据え共通性と一貫性のある指導支援をするとともに、家庭、地域と協働しながら「地域とともにある学校づくり」を進め、児童生徒の豊かな成長を支えていきたいと思えます。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。